

研究成果の今後の活用について

研究テーマ	東大阪市魅力の創造・情報発信・場の生成に向けた基礎的調査
担当部署	建築部 住宅政策室

研究を希望した理由	<p>住生活基本計画において目標のひとつとして掲げる「若年子育て世帯に選択されるまちへの転換」の実現に向けて、住環境の面から多様な主体と連携して民間と行政がどのようなアプローチを行うべきかを考えるため、研究を希望した。</p>
研究成果の概要	<p>○本市には多くの魅力があるが、若年・子育て世帯に訴求するような魅力が十分伝わっていない。一方、本市には、住環境に関心があり自己実現を目指す子育て中の母親などが多様な活動をしている。</p> <p>○昨年度の研究で、「交流を促進する機能」が不足していることが明らかになった。</p> <p>○今年度の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半「東大阪市の魅力・情報発信・場の生成に向けた基礎的調査」 ・後半「民間主導の自律的な場の設定と活動の研究」 ・研究結果「コミュニティ・ビジネスの創出」が必要 <p>⇒能動的な多くの主体が自己実現できる環境整備と支援を、継続的に活動家に寄り添い繋がりながら実施。</p> <p>◎まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼本市には、自己実現を目指す主体が地域ごとに多数存在し、活動しているが、それらを横につなぐ機能の不足というボトルネックが存在するため、主体同士をつなぎ、マネジメントする機能が必要である。 ▼コミュニティ・ビジネスを育成することで、段階的に主体相互の関係性を進化させていくことが重要である <ul style="list-style-type: none"> ①建物ストックに「魅力が創出」できれば、結果的に居住地として魅力が出せる。 ②魅力とはハート(共感)であり、建物という価値のあるハード

	<p>や住環境というソフトを目指すのではない。</p> <p>③多様な主体が相互交流を通して参加した個人が自己実現できる環境を整備することで、ハートが醸成される。</p> <p>▼コミュニティ・ビジネスを育成することで、民間が自律的に自走する仕組みを確立</p> <p>①「事業収入」「会費」「補助金・助成金」「委託事業」「寄付」の5つの財源の組み合わせ</p> <p>②補助金のような一過性の資金をあてにしない、継続性ある事業となるための収入源確保が不可欠</p> <p>◎今後の取組み</p> <p>▼コミュニティ・ビジネスの創造に向けて、民間主導で自律的に取組みを行う予定</p> <p>○「魅力の創出」には、交流を促進する企画・開催・情報発信の「マネジメント機能」が必要</p> <p>○「マネジメント機能」は民間主導で行うものであり、行政は行うべきでない。</p> <p>▼継続的に東大阪市に対して研究結果を還元する</p> <p>▼定期的に東大阪市と意見交換や情報提供を行う</p>
研究成果の今後の活用について	<p>○関係部署に情報提供を行い、興味のある部署には藤岡教授が説明する場を設定し、取組みの水平展開を図る。</p> <p>○定期的に意見交換や情報提供を行い、取組みに対して継続的に支援する。</p> <p>○継続的な研究結果の還元により、住環境分野における取組みの検討を行うための基礎資料とする。</p>